

氏名	藤原二郎		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	乙第822号		
学位授与の日付	昭和51年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	精神分裂症の血清チロジン濃度の日内リズム		
論文審査委員	教授 高坂 睦年	教授 森 昭胤	教授 水原舜爾

学位論文内容の要旨

非定型分裂病12例、破瓜型分裂病10例、その他の分裂病6例、神経症12例、器質性脳疾患10例および正常人6例の計56例の血清チロジン濃度の日内リズムを測定した。

午前8時から6時間おきに午後2時、午後8時、翌日の午前2時と午前8時に5回採血した。血清チロジン濃度は午前8時に最低で午後8時に最高であったが、前後に多少のずれを示した。最低値を基準として最高値を百分比で表わすと、正常人では120%～150%であった。これを日内リズムの標準型とし、120%未満を平坦型、150%以上をピーク型とした。午前8時の血清チロジン濃度は各疾患の間で有意差はなかった。

非定型分裂病ではピーク型が58%で、平坦型はなく、破瓜型分裂病では平坦型が60%でピーク型はなかった。その他の分裂病、神経症および器質性脳疾患では標準型が多いが、ピーク型あるいは平坦型も認めた。

症状の特徴としてはピーク型を示すものは亢奮、錯乱あるいは昏迷などの激しい精神症状を示す非定型分裂病および神経症が8例と多いが、他に情緒不安定で不安緊張感が持続する性格神経症、表面的には情動の安定している妄想型分裂病および痴呆を有する器質性脳疾患が各2例あった。

平坦型を示すものは情意鈍麻を主症状として異常体験などの陽性症状の乏しい破瓜型分裂病が6例と多く、他に初老期妄想症が1例とヒステリーが1例であった。

9例で1～94週の間隔をおいて日内リズムを再検した。そのうち2例では1週間の断薬後に測定した。日内リズムの振幅の変動は少なく、ピーク型と平坦型の間の移行は認めなかった。

論文審査の結果の要旨

本研究は各種精神疾患患者について血清チロジンを測定し、患者でも朝8時に低く午後8

時に高いリズムを示すものが多いこと，チロジン値の最高・最低値の比が，病型によって特徴を示すことを観察，精神疾患とチロジン代謝について新しい知見を加えたもので価値あるものと認めた。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。